

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月16日(木)5校時

児童数 男子6名 女子11名 計17名

指導者 藤澤 美紀子

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
- 2 教材名 「平和のとりでを築く」 (光村図書 六年下)

3 単元について

(1) 児童について

児童はこれまでに、6年上「生き物はつながり中に」を学習してきた。教材文を自分で要約し、筆者の考えに対して自分の考えをもつことを学習してきた。筆者の考えに対する自分の考えをより明らかにするために、補助教材として「人類はほろびるか」を取り上げてきた。生き物が環境に合わせて暮らす例や、人間が道具や知恵によって生き延びてきたことを読み取ることによって、生き物が生きていくことの素晴らしさについて再度考え、「生き物として生きていることについて自分が考えたこと」について1分程度のスピーチをし、感想を交流しあってきた。

これらの学習を通して、段落の役割を考えながら要約することができるようになったり、友達の考えから学ぶことの大切さや、自分と違う考えを聞くことによってさらに深く考えようしたりする態度が見られるようになってきている。自分の考えを発表することはだいたいできるようになってきたものの、友達の発表に感想を話す、アドバイスするなどはまだ抵抗を感じている児童が多いのも実態である。

本校の国語のアンケート結果によると「国語がとても好き」と答えた児童は8人、「まあまあ好き」という児童が8人とどちらかと言うと国語を好む児童が多く見られる。好きな理由として自分たちで読み取って考えたりすることがおもしろい、文章を読み取ることができるようになった、物語の登場人物の気持ちを深く読み取ることができるからということ挙げている児童が多い。その反面、文章問題が苦手、伝えたいことを文章に表わすことができないなどを理由に国語を苦手と感じている児童もいる。また、「読書を通して考えを広げたり、深めようとしたりしているか」という問いに対しては「あまりそうしていない」という児童が5名もいる。読むときに大事な言葉や自分で課題を立て、目的をもって読書させることによって自分の視野を広げていくことが今後必要であろう。

NRTの結果を見ると、国語の学力偏差値平均55.5と全国よりも高い。今後は、読むときに大事な言葉や文章に着目しながら読む力を更に高め、根拠をもって書いたり話したりする力をつけること、必要な図書資料を自分で選び、読書を通して自分の考えを広げたり、深めたりする力をつけることが必要であると考えられる。

(2) 教材について

小学校学習指導要領における高学年「C 読むこと」の領域の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。また、指導内容は、「ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。」

「イ 目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。」「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。」「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。」「オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。」である。

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。「平和のとりでを築く」を読み取るとともに、「平和」というテーマに関わる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していく学習である。さまざまな情報を集め、それを学ぶだけでなく、それをもとに自分の考えを深め、発信することで表現能力を高めることもねらいとしている。筆者の主張を読み取り、自分の考えをもつこと、さらに「平和」についてさらに考えを深めるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流することをねらいとしている単元である。

本教材は、原子爆弾によって傷だらけになった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。原爆ドームへの筆者の思いに始まり、原爆ドームがたどった歴史と世界遺産への道のりが編年体で説明され、最後は筆者が伝えたいことで締めくくられている。これまで児童が多く目にしてきた「問いの文」「答えの文」「筆者の主張」という説明文とは文章構成が違っているが、文章全体が4つの大きなまとまりに分かれており、それぞれが筆者の主張を読み取る上で大事な役割を果たしている尾括型の説明文であるということを理解するのに適した教材である。

本単元の学習を通して、「原爆ドーム」が世界遺産になるまでの経緯と人々の平和への願いの強さを読み取らせ、

「被爆国日本だからこそ訴えられる世界平和」についてさまざまな図書資料から根拠となることを調べ、学習新聞を書かせたい。

(3) 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、平和についての意見文を書くことを読みの目的とする。「原爆ドームは、核兵器は不必要だと世界の人々に警告し、見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産である。」という筆者の主張を読み取らせ、自分で要旨をまとめることができるように指導していきたい。そのために、段落の役割を考えながら読み、筆者の主張が表れているのはどの段落なのかに着目させながら読ませていきたい。

そして、「被爆国日本だからこそ訴えられる世界平和」として、「原爆」に焦点を当て、新聞記事や図書資料などから情報を集めさせたい。情報の整理は、「事実と考えに分けてまとめること」、「資料で何を訴えようとしているのか要約する」ことを中心にさせていきたい。これらの活動から、仮の要旨を立て、相手に自分の考えを伝えることができるように中間発表会を開いていきたい。このことによって自分の選んだ資料が妥当かどうかを再度考えたり、お互いの考えを交流することによってさらに深く考えたり、情報を集めなおしたりすることができたりするであろう。中間発表会をもとに構成を考えさせながらよりよい意見文になるように指導していき、最後に「平和学習新聞」としてまとめていきたい。学習新聞は、トップ記事に「原爆について調べたこと」、たたみ記事に「調べたことに対する自分の意見」、囲み記事に「友達の考えから学んだこと、友達とテーマについて話し合ったこと」などに分けて書くことができるという利点がある。そして、中核教材で学んだ「事実と考えに分けて読むこと」、「資料の要旨をとらえて読むこと」などが記事にまとめる際に生かすことができる。また、最後の「意見文を読みあう」活動で、印刷して全員に配布し、友達の意見を読み合うことができるという理由から学習新聞を取り上げることにした。

4 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

◎「平和」についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書いて交流し、今後も考え続ける意欲をもとうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

◎筆者の考えをまとめ、自分はどうのように考えるかをまとめることができる。(読むこと・エ)

○テーマに即した本や資料を選び、自分の考えをまとめるために読むことができる。(読むことア・オ)

○自分の考えを明確に表現するために、仮の要旨を立て、確定した要旨にするために必要な情報を選び、効果的な文章の組み立てを考えることができる。(書くこと・ウ)

○事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりすることができる。(書くこと・エ)

○文章にはいろいろな構成があることを知り、適切な構成を考えることができる。

(言語事項・オ(ア))

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語についての知識・理解・技能
<p>原爆ドームが世界遺産になったことにおける筆者の思いや平和への願いを進んで読み取ろうとしている。</p> <p>「平和」について考え、必要な情報を選び、意見文を書こうとしている。</p>	<p>「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読んでいる。(イ)</p> <p>筆者の考えをまとめ、自分はどうのように考えるのかまとめている。(エ)</p> <p>テーマに即して本を選び、自分の考えをまとめるために読んでいる。(ア・オ)</p>	<p>自分の考えを明確にするために、効果的な文章の組み立てを考えている。</p> <p>事実と意見を区別して書いたり、自分の考えが読み手にわかりやすく伝わるように書いたりしている。</p>	<p>文章にはいろいろな構成があることを知り、適切な構成を考えている。(オ(ア))</p>

5 指導と評価の計画 (指導時数15時間)

段階	時間	主な学習活動	評価規準(おおむね満足できる状況)
一次 つかむ	1	1 全文を読み、学習のめあてをもつ。 (1)・全文を読んで、おおまかな内容をつかむ。 ・感想を交流しあいながら、学習の見通しをもつ。 ・新出漢字を確認し、難語句を調べる。	関 興味をもって教材文を読み、感想を書いたり、話したりしている。 【観察・発表】 読 大まかな内容をつかみ、繰り返し出てくる言葉や題名に関する言葉に着目しながら読んでいます。【観察・発表】
二次 たしかめる	4	2 文章の内容をとらえて、筆者が読者に考えてほしいと願っていることを読み取る。 (1)題名と第一段落から読みの課題をもち、全文が4つの大きなまとまりに分かれていることを読み取る。 (2)原爆ドームに対する筆者の思いを読み取る。 (3)原爆ドームの被害と、世界遺産までの道のりを読み取る。 (4)筆者の考えを読み取り、要旨をまとめ、筆者の考えに対する自分の考えを書く。	読 文章を4つの大きなまとまりごとに要点をまとめながら読み取っている。 【発表・ノート】 読 筆者の考えを読み取り、要旨をまとめている。【ノート】 読 世界遺産に登録されるまでの道のりを年表にまとめている。【ノート】 書 筆者に対する自分の考えを書いている。 【ノート・観察】
三次 ひろめる 本時	10	3 「被爆国日本から訴える世界平和」を考え、テーマに対してさまざまな方法を使って調べ、意見文にまとめる。 (1)原爆に関する新聞記事や資料を読んで考えたことを交流する。 【1時間】 (2)「仮の要旨」を立て、それを調べる計画を立てる。 【1時間】 (3)仮の要旨が説得力をもつように図書資料やインターネットなどから情報を集める。 【4時間】 (4)資料を提示しながら自分の考えを発表しあい、それを聞いてアドバイスをする。 【1時間】 (5)友達からアドバイスされたことや友達の発表からさらに考えたことをもとに学習新聞を完成させる。 【2時間】 4 意見発表会をし、「平和な世界にするために自分が訴えていきたいこと」について交流しあう。 (1)学習新聞を読み合い、感想を交流しあう。 【1時間】	関 新聞記事や資料から考えたことを発表しようとしている。【観察・ノート】 書 被爆国日本から世界の平和のために自分が訴えていきたいことは何か考え、仮の要旨を立てている。【観察・ノート】 関 平和に関することについてさまざまな図書資料から調べようとしている。 【観察・発言・ノート】 書 図書資料の調べ方、インターネットを活用し、事実と考えに分けたり、要約したりしながら情報を整理している。 【観察・ノート】 読 調べたことと考えたことを分けながら発表しようとしている。【観察・ノート】 読 自分の知識や体験から友達の考えにアドバイスしている。【観察・発表メモ】 書 アドバイスをもとに、文章の構成を考えながら、意見文を書いている。【ノート】 関 友達の考えから「平和」についてさらに考えようとしている。【感想メモ】

6 本時の授業

(1) 本時の目標

【書くこと】

○世界の平和のために自分が訴えていきたいことを交流しあい、よりよい学習新聞にするためにアドバイスをしたり、友達から学んだことを表現したりすることができる。

(2) 授業仮説

○仮説2 『読む目的を明確にした学習活動をする。』

中核教材でつけた「事実と考えに分けてまとめる」、「資料で何を訴えようとしているのか要約する」という力を生かし、平和に関するテーマについて調べ、調べたこと、考えたことを友達同士で交流しあうことでさらに自分の考えを深めることができるであろう。【活用1】

(3)展開

段階	学習内容と主な学習活動	・教師の支援 仮説に関わる主な支援 評 評価
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 「被爆国日本」から世界平和を発信しよう。	・前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認させる。 ・学習課題を一斉読み、課題をつかませる。 ・自分が調べたことと、考えたことをスピーチしあい、さらに説得力のある学習新聞にするために、アドバイスしたり、自分の考えを深めたりする時間であることを確かめる。
た し か め る 35分	3 本時の学習の進め方について確認する。 4 自分が選んだ資料をもとに、平和な世界にするために自分が訴えていきたいことについて発表する。 (1)仮の要旨が似ている人同士でグループを作り、スピーチする。 (2)どの資料が説得力があったのかについて話し合う。 ・この資料だけでは仮の要旨に説得力がない。もっと事例を集めたほうが良い。 ・自分の○○という資料には、このようなことが書いてあったので参考になるのではないか。 5 友達の考えからさらに考えたことや、よりよい意見文にするために次の活動でしたいことについてまとめることができる。 ・○○さんの資料をもとに、仮の要旨の根拠を考えたい。 ・○○さんの考え方ととても似ていたため、確定の要旨を書くときに、書き方を参考にしたい。 ・○○さんの考えは、自分の考えと違っていたけれど、とても納得したので、根拠になる資料を自分でも読んでみたい。	仮説2 に関わる支援 ・テーマと提示された資料に説得力があるのか、友達の考えからさらに自分の意見文に取り入れられることはないかをメモさせながら聞くようにする。 ・テーマが同じ人どうしてグループを作り、聞く側がアドバイスをしやすい形にする。 友達の発表を聞いて、さらに考えたことや、次の活動でしたいことなどをまとめさせる。 評 <おおむね満足できる状況B> 友達の発表をもとに、自分の考えをより深めようとする ○Cの児童への支援 友達の考えと根拠となる資料について気をつけてスピーチを聞かせ、自分との違いに注目させる。(観察・ワークシート) 友達の発表から、自分の意見文を見直し、よりよい発表にな
まとめる 5分	6 本時の学習のまとめをする。 ・本時の学習を振り返り、スピーチし合ったことで学んだことについて発表しあう。	・本時の学習を振り返らせ、感想を発表させる。 評 本時の学習で分かったこと、スピーチしたことから感じたことなどを書いたり、発表したりすることができたか。

平和のとりでを築く

課題

被爆国日本から世界平和を発信しよう。

- ・ 友達の考えから自分の考えを見直そう。
- ・ 友達の考えから、さらに考えたことを新聞に付け足そう。

テーマごとのグループ(例)

- ・ 広島の前爆での被害とは【・・・さん、・・・さん、・・・さん、】
- ・ 長崎では原爆でどのような被害があったのか【・・・さん、・・・さん、・・・さん、】
- ・ 原爆が落とされたその後の暮らし【・・・さん、・・・さん、・・・さん、】
- ・ 今も被爆で苦しむ人々【・・・さん、・・・さん、・・・さん、】
- ・ 今年の平和祈念祭で私たちと同じ年の子が宣言したこととは？【・・・さん、・・・さん、】

交流を通して